滋賀県立琵琶湖博物館協議会
令和５年度第２回会議

日　時　令和６年（2024年）１月30日（火）

14時00分～16時30分

場　所　琵琶湖博物館１階セミナー室

会　議　次　第

１　開　会

２　議　題

（１）滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく

重点事業計画の見直しについて

３　報告事項

（１）水族展示室の水槽破損事故について

４　その他

５　閉　会

１　開　会

○司会（杲副館長）：それでは、定刻になりましたので、ただいまから滋賀県立琵琶湖博物館協議会令和５年度第２回会議を開催させていただきます。

開会に当たりまして、館長の高橋がご挨拶申し上げます。

○高橋館長：失礼いたします。

皆様、本日もお忙しい中、時間を割いてお集まりいただき、ありがとうございます。

今年は年の初めから地震があったり、飛行機の事故があったり、その後にもあまり芳しくないニュースがずっと続きまして、心の底から喜んで新しい年を迎えるということがなかなかできませんでしたけれども、当博物館からは研究部長の芳賀が県職員の一員としまして、能登半島の避難所の応援に行ってまいりました。私の知り合いの人も穴水町におりますけれども、家が潰れてしまって、９日ほど車中泊、車の中で泊まったという話を聞きまして、一日も早く被災された方々に日常の生活が戻ることをお祈りするばかりでございます。

本日は、令和５年度の第２回の協議会ということになっておりますけれども、議題といたしましては、「琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく重点事業計画の見直しについて」ということになっております。私たち自身が行いました内部評価、また皆様方に大変なご苦労をおかけいたしました外部評価、こういうことに基づきまして今後の計画について見直しましたので、皆様方のこの評価も含めまして、今日はご意見を頂戴できればありがたいというふうに思っております。

現在、私たちが中長期計画の目標として考えておりますことは、方向性としては定まっているところでございますけれども、やはり具体的な点でありますと、まだなかなかしっかり決まっていないところもたくさんありますので、本日の議論も踏まえまして、さらによいものにしていきたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

また、報告事項といたしまして、昨年２月に起こりました水槽破損事故の経過でございますとか、その後の経過でございますとか、現状ですとか、それから今後のことについて報告させていただくことになっております。

本日も忌憚のないご意見を頂戴いただければありがたく思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（杲副館長）：私は、本日、司会をさせていただきます副館長の杲でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議では、あらかじめ欠席ということで、鹿田委員、布谷委員、中川委員、中野委員からご連絡いただいておりまして、ご欠席ということでございますが、澤田委員につきましては、まだ今この時点でお越しではないんですけれども、時間ということで始めさせていただいております。（澤田委員ほどなく出席）

また、前回まで委員でご就任いただいておりました手島委員の後任としまして、産経新聞大津支局記者の野瀬吉信様が就任されておりますので、ご紹介いたします。野瀬委員から自己紹介などいただければと思いますので、お願いいたします。

○野瀬委員：産経新聞社記者の野瀬と申します。

日頃は産経新聞、琵琶湖博物館の学芸員さんに企画を書いていただいて、非常にお世話になっています。今回こういうふうな場で意見を言えるというのは――意見を言うかどうか分かりませんけれども、こういうような意見を言うような場に呼んでいただいて、新聞記者としても非常に感謝しています。よろしくお願いします。

○司会（杲副館長）：ありがとうございます。　　それでは、議事に入るところでございますが、少し私のほうからおわびを申し上げたいと思います。

前回、８月３日に開催させていただきました第１回の博物館協議会の議事録につきまして、委員の皆様にお示しするのがこの会議の直前になってしまったということで、大変申し訳ないというように考えております。今後こういうことのないように取組を進めたいと思います。大いに反省しておりますが、組織としても適切な事務の執行に努めてまいりますので、ご容赦いただきたいというふうに思います。誠に申し訳ございませんでした。それでは、続けさせていただきまして、定足数のご報告をさせていただきます。

協議会の定足数につきましては、滋賀県立琵琶湖博物館の設置及び管理に関する条例第９条２項の規定によりまして、会議は委員の半数以上が出席しなければ開くことができないとされておりますが、本日は委員定数13名のうち、今お越しいただきました澤田委員を含めまして９名ご出席いただいておりますので、定足数を満たし、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、以後の議事は、同条例第９条第３項の規定によりまして、会長が会議の議長を務めていただくことになっておりますので、村上会長、よろしくお願いいたします。

２　議　題

（１）滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく

重点事業計画の見直しについて

○会長：それでは、議事の進行をさせていただきます。会議の円滑な進行について皆様のご協力をお願いいたします。

まず、議題（１）の「第三次中長期基本計画における重点事業計画の見直しについて」、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（企画・広報営業課長）：では、まず資料の確認からさせていただきます。

資料１が今回ご議論いただきます中長期基本計画における重点事業計画で見直したものです。これは2021年度から５年間の計画で、それぞれの事業目標の中にある重点事業計画を立てたものです。それをこれまでの内部評価と今の琵琶湖博物館の現状と、前回皆様から頂戴いたしました外部評価、これらを加味して計画を見直したというものです。

ほかに資料２が、我々が今年度の初めに行った前年度の内部評価です。

資料３は、皆様からいただきました内部評価に対する外部評価という形でご意見をまとめたものです。

議題（１）の資料は、この１、２、３ですが、もう一つ、次の議題の報告事項にあります水槽事故についての報告事項を資料４という形でつけさせていただいております。

本日の議題の資料として、資料１があります。この資料１は先ほども言いましたように、2021年度から５年計画で立てている重点事業の計画です。対象年度にどういったことをするのか、その先の2025年度まで各年度にどういったことをするのかということと、そのことによってどういう達成する状態にもっていこうとするのか、目標のことが書かれたものです。

資料３の外部評価に関して、ですけれども、基本的には皆様からいただいたご意見を各事業目標ごとに列挙していますが、今回から、会長、副会長にそれらをまとめた総評という形で書いていただいているものが初めについています。この総評に関しては、会長のほうから改めてご説明いただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

○会長：ありがとうございます。今お話のありました資料３の外部評価は、昨年夏に皆様に外部評価についてお書きいただきまして、それを事業目標ごとに集約をいただいたものが５ページからの内容になります。それを副会長の布谷さんと相談しまして、総評の

ような形で３ページ、４ページにまとめさせていただいております。

改めて資料をご覧いただきまして、皆様の外部評価、お書きいただいたご意見が反映されているかということと、一応総評という形でまとめさせていただきましたが、文章を見直していただきまして、これで委員の総意という形でまとめて公開するということでよろしいかご確認をいただければと思います。ご意見等ありましたら、資料３につきましてお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。（しばらく待つが、意見は出なかった。）

それでは、ご承認いただけたということで、資料３、昨年度の外部評価という形で、これで完成ということにいたしたいと思います。

それでは、続きまして事業目標につきまして、事務局のほうからお願いいたします。

○事務局（企画・広報営業課長）：これらの現状と我々の内部評価と、今見ていただきました外部評価を合わせまして、現在立てている重点事業の計画について見直したというのが資料１でございます。

今回ご議論、ご意見いただくものについては、まず進め方ですけれども、事業目標は１、２、３、４、５、６という６つの事業目標からなっております。それぞれの事業目標に担当がいますので、事業目標１と２、次に３と４、その次に５と６という形で２つずつの事業目標ごとにご議論いただくということを進めさせていただきたいと思います。

では、まず初めに、事業目標１と２に関して、事務局側からご説明いたしますので、その後、ご議論いただければありがたいと存じます。よろしくお願いします。

では、事業目標１からです。

○事務局（研究部長）：事業目標の１については、「琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介」ということで、研究部の目標ということになります。

１－１につきましては、研究の進め方ということなんですけれども、現在進めている総合研究自体が２年間延長されることになりましたので、それに合わせてスケジュール変更を行っております。その成果について公表をしていくということなんですが、2024年度、この夏、企画展示としてまず第１弾、私が担当で、水草に関することを150年規模の形でやりたいと考えています。

それから、2025年も同じく総合研究の成果に基づく企画展示とありますけれども、こちらは散歩とか地図から読み取る、そういうことをやる予定になっています。１－１に

つきましては、そういうふうにスケジュール変更となっております。

１－２に関しては順調に進んでおりまして、ウェブコンテンツを充実させていっている状態ですので、そのままとしております。

それから、１－３、これはいろんな内部評価、外部評価でご心配をいただいているところですけれども、やはり研究の質を高めるための機器類の整備、環境の整備というのがなかなか進みにくいというところで、これも後ろに載っております。例えば、これちょっと消し忘れたんですけれども、2023年の大型備品の軟Ｘ線検査装置の調達というのは、残念ですが、これは２年後に先送りとなりました。といいますのも、やはり水槽破損の件がありまして、その辺のところの配分ということで後ろになっております。

あわせまして３人、新しい学芸員が来たこともありますので、改めて大型機器、何が必要かというところを再調整していくことにしております。研究部に関しましては、変更は以上です。

○事務局（企画・広報営業課長）：では、続きまして事業目標２の担当からご説明いたします。

○事務局（資料活用係長）：資料活用係の事業目標２の「資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備」というところについては、内容の変更はありません。もともとのとおりで進めています。

概要を説明していきますと、２－１の「標本資料の管理体制の強化」ということについて、これは今年に入って特に、実は結構修繕が進んできていまして、収蔵庫の問題が幾つか解消されてきています。問題は、それよりも早いペースで不具合が新たに出てくるということでして、今後しばらく、今後というか抜本的な修繕ができない限りは、こういう直しては壊れの戦いの繰り返しになるのではないかと考えています。

それでは、２－２です。「標本・資料の整備の進捗と公開による利用促進」ということで、標本の整備については予算的なこともありまして、できる範囲で頑張っているところなんですけれども、今年からＤＸ関係の予算がつきまして、３Ｄコンテンツとか電子図鑑の公開ということの準備を始めています。それで年度末ぐらいには少し公開できるんじゃないかと思っているんですけれども、そういう形で予算の裏づけがあって、公開のほうについては少しペースアップしているというところです。

ＩＣＴを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出というところで、

これについては先ほどもちょっと話しましたけれども、一つの売り物は３Ｄコンテンテツなんですね。３Ｄコンテンツというのは、特に展示室などに出しづらいもの、ないしは出せたとしてもある特定の角度からしか見せられないもの、こういったものについて高精度の３Ｄモデルを作りまして、これをウェブ上に上げて、どういう向きからでも全部見られるようにしようという、そういう企画です。これは今先行しているのが土器です。実は昨年の企画展でも一部公開したんですけれども、その土器をあらゆる方向から手に取るように見ることができるようなモデルを作っています。あと骨です。一部頭骨について同じようなモデルを作って、それの公開の準備を進めているところです。

それから、これは資料情報と言えるかどうか分からないんですけど、ＧＩＳです。地理情報システムの上に生物の観測データ、例えば今進めているのが野鳥の会が調べました鳥の観察記録のデータ、こういったものを搭載しまして、やがてウェブ上から、いつ頃どんな鳥がどこにいたのかというのがちゃんと分かるようにしようという、そういう企画も進行中です。

○事務局（企画・広報営業課長）：ありがとうございました。以上、事業目標１と２についてのご説明でした。では、併せて１と２についてご議論、ご意見いただければと思います。では、会長、よろしくお願いいたします。

○会長：今のご説明、事業目標１・２について、達成する目標と進めることについて2024年度と2025年度、見え消しのような状態で更新・修正いただいています。また、コメントを下のところに、どういう方向性で見直しを行ったかということを書いてくださっています。外部評価の意見が踏まえられているかなども含めて、委員の皆様から、１・２につきましてご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

では、１つ目、私から質問いたします。気になりましたのが、１－３の２ページ目の2024年度のところで、調達計画の見直し、水槽事故の破損のこともあって見直しが必要だということで、調査船の更新が消されている状況になっているんですけども、しばらく後になることで何か支障がないかとか、もう小規模な改修は必要な状況になっているのかとか、調査船の状況について教えていただければと思います。

○事務局（研究部長）：ソフトＸ線装置については、まだ今使っているものが生きておりますので、かろうじてですが、継続はできております。

調査船につきましては、これちょっと別の問題もありまして、コロナ前あたりから船

がとにかく足りないという船ブームなんですね。釣りブームとかコロナの関係でそういうのが起こって、メーカーに問い合わせると、納品は６年先ですとか言われるんです。これが解消するまでは、ちょっと今の船を何とかだましだまし使っていくしかないのかなというところはあります。

もう一つは、調査船以上にもっと早く入れなければいけないものがあるのではないかというところを、もう一回精査し直そうかというところです。

○会長：ありがとうございます。ほかに１・２につきまして、ご質問、ご意見等お願いいたします。

○委員：まず、資料活用係長の説明のところの、２－２の標本・資料の整理に関して、ＤＸに予算がついたというお話ですが、どのぐらいついたのか。また、それがやろうとしていることに対して見合ったものなのか、ものすごく足りないものなのかというところを聞きたいと思います。

それと調査船の話なんですけど、ちょっと話はずれるかもしれませんけれども、昨今、琵琶湖の水位が、特別対策本部が立ち上がるほど水位が下がっている中、調査船の何か不具合が起きていないかというのを聞きたいと思います。

それと３つ目が、ＩＣＴを利用し、だれでも・どこでも、いつでも使える博物館を創出というところはとても期待しているんですけれども、盲学校であるとか聾話学校、養護学校さんがなかなかこの建屋に来にくいという、障害がある子たちの学びとしてそういうものを活用するというのはすごく期待度が高いんですけども、いいものが出来上がったとしても、それをどんなふうに活用を促しているのか、促すつもりなのかというところ、その３点をお願いします。

○事務局（資料活用係長）：それでは、先に１点目と３点目についてなんですけれども、１つ目、電子図鑑とかＧＩＳのソフトウェアとか３Ｄについては、予算の規模は実は、今年、「デジタル田園都市国家構想交付金」という（国の）交付金があったこともあって結構大きくて、5,000万円ほどついています。それで、そのうちの一部は使い切らなかったんですけど、大体８割ぐらいは使って事業を進めているというところです。

それで、どのぐらいのものができたか。実はまだ完成していない部分もあるんですけれども、当初の予定よりは少し遅れています。ただ、電子図鑑については年度末までに魚類と両生類と哺乳類、滋賀県のほうはこれをコンプリートできそうですし、またプラ

ンクトンの図鑑を一部ですけど、公開できそうというところまで来ています。

１つ目がそれで、３つ目ですが、実はこれがなかなか難しい問題で、例えばＧＩＳのソフトウェアをどうやって見せるかというのを今考えているところなんですけど、これがどのぐらいユニバーサルデザイン的に価値のあるものができるかということについては、今後はソフトウェアの改良がかなり必要になってくると思うんですね。３Ｄのコンテンツについてもそうで、基本的に手に取るように回して見ることができる。これはいいことなんですけども、ただそれを目の見えない人がそれを使えるかどうかとなると、なかなか難しいところがある。何かアイデアはないでしょうか。

○委員：それは見えないから駄目ではなくて、活用される先生方がそれをどのように活用するかという、ちょっとアドバイスとかコミュニケーションを取られたら、見えないから駄目ということではないと思いますので、その辺、盲学校さんともやり取りを十分にしたらいいのかなと思います。

○事務局（資料活用係長）：ありがとうございます。

○事務局（研究部長）：２番目の水位低下ですけども、不具合は別に生じていないんですが、４か月ほど港から見たら低い状態になっております。もう本当に琵琶湖の水を止めようかと思うぐらい困っておりますけれども、機体自体に不具合は生じておりません。

○会長：ありがとうございます。ほかにご意見、コメント等よろしいでしょうか。

ウェブ図鑑のほうは私も楽しみにしておりますので、ぜひ積極的に進めてください。

それでは、次の事業目標３・４につきまして、お願いします。

○事務局（企画・広報営業課長）：では、順番に事業目標３、引き続き事業目標４についてご説明いたします。では、事業目標３からです。

○事務局（環境学習・交流係長）：事業目標３のところ、「みんなで学びあう博物館へ」というところなんですが、３つの事業がありまして、それぞれ変更点があります。

まず１つ目は、３－１のところですが、今年はびわ博フェスなどを通じて試験的に行おうということで、このあたりで変更しておきました。

それから、体験型を重視することで強調させていただきました。計画どおりに進めさせていただきましたところ、このような変更となりました。

また、３－２のところ、出会いの場の創出というところなんですが、ここも変更しておりまして、これまでには新しい登録制度ということなんですが、こちらのほうで検討

させていただきました。見直しも含めてしておりました。その結果、現時点では当館の運営状況からすると、新しい制度の、当館にとっても参加者にとっても双方にとっての利点などについては、さらに整理する必要があるということで、今後さらに検討していきたいと考えており、そのために変更させていただきました。

そして、最後に３－３のところなんですが、今年は過去３年間の受講生に対してアンケートの追加調査を行うということで変更させていただきました。その背景としましては、これまで現場でどのようなことになりましたら実施可能かどうかとか、あるいは新たな博物館利用ができるかどうかということも含めて、現場での実態を把握するために、さらに進めていく必要があるため、ここを変更させていただきました。以上です。

○事務局（展示係長）：事業目標４は、「もっと使いやすい博物館へ」ということで、主に展示空間での使いやすさ、利便性の向上ということを目指しております。

３つの項目がございまして、順番に説明いたします。

４－１は、誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長ということで、基本的にはユニバーサルデザインの観点が別にありながら、今期の中長期計画においては、展示室での音声ガイドを中心事業としております。今年度の１回目の協議会でもお話しをしたんですけれども、昨年度まで使っていたびわ博ナビというものから今年度は、「ポケット学芸員」というアプリを中心に展開をしておりまして、外部評価においても「ポケット学芸員」については期待評価、大いにいただいているところで、現状どういうことになっておりますかといいますと、今年度、日本語の音声ガイドを運用しておりまして、先日、英語の音声ガイドが完成して、追加した状態です。現在、中国語も準備中ということで、じわじわとコンテンツを増やしている状況です。さらに、「ポケット学芸員」というアプリはいろいろポテンシャルがありまして、動画を載せたり、音を出したり、展示室にないもの、残ったものを載せることも可能ですので、そういった使い方についても、今後、追求していければなと思っております。また、アプリが使いにくいという利用者のためには、展示室から直接ＱＲコードなどでアクセスできるような音声ガイドのコンテンツの準備も来年度以降、試行していきたいと思っております。

これらができるようになりましたのは、物理的にＷｉ－Ｆｉの補強がなされまして、展示室でのネットの使用環境が少し向上しました。

そういったことも踏まえて、次の４－２、「観る」展示から「観る＋使う」展示への

成長の項目も説明いたしますけれども、こちらは展示室で展示を見て得られる情報以外に、もっと展示を楽しむための深掘りの情報であったりとか、展示室で提示できない情報も見られるようにしたいということで、先ほど大塚のほうから説明がありましたＤＸ事業で開発されるウェブ図鑑であったりとか、あとバーチャルミュージアムのコンテンツを展示室からでも見られるようにしたいということを考えているところです。

これまではちょっとＷｉ－Ｆｉ環境が悪くて、展示室からネットにアクセスするのがなかなか難しかったので、できていなかったんですけれども、来年度以降は展示室からＱＲコード等で高い情報を取りにいけるような仕組みを設置して、利用状況の評価をしてからコンテンツを増やしていく方向で進めようと考えております。

次の４－３の社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長ということは、これは展示更新ということなんですけれども、展示更新は２つありまして、内容をどんどん更新していくということ。これは各学芸員が研究している内容を、現在でも小規模、中規模で内容更新を行っているところでございます。

もう一つは、機器類の更新、展示装置の更新等、そういったハード面の更新があるかと思います。後ほど説明があります水槽の破損ということも起きましたし、水槽だけではなく、ほかの常設展示でもいろいろな機器類の老朽化が若干進んでおりまして、そういったものをより見やすい、いつでもちゃんと機能する展示ということを目指して更新をしていく計画を立てるというのが来年度の大きな目標になっております。そこから先、少しずつ更新を行っていかないと、琵琶湖博物館の大きな魅力である展示が損なわれるような事態にもなりかねないので、そのあたりは計画性を持って、誰が博物館に来ても楽しめるという、この事業目標４全体の目標でもあるんですけれども、そういったところを目指して展示の更新を行っていきたいと考えております。以上です。

○事務局（企画・広報営業課長）：以上、事業目標３と４、主に交流事業と展示事業についての計画でした。では、ご議論をよろしくお願いいたします。

○会長：今のご説明につきまして、事業目的３・４のところで、ご質問、ご意見等お願いいたします。

○委員：特に具体的にということじゃなくて、「びわ博フェス」とか、「ポケット学芸員」とか、こういうような単語って、新聞記者的に非常に魅力的です。ただ、私自身、実際あまり知らなかったんですね。私だけが知らないのかなとも思いましたけども、今、こ

の場で言うのがふさわしいかどうか分かりませんけども、発信力ということに関して、特に「ポケット学芸員」なんて、新聞に見出しが躍ったら楽しそうで、子どもだけじゃなくて、大人にとってもそうですけれども、こういうような発信力ということに関して、先日の大きな水槽が割れたときの、そういうのは、マスコミは喜んで飛びつくんですけれども、それ以外のすごくいいコンテンツがあるのに、全体的に、美術館でもそうなんですけれども、滋賀県の施設というのは駄目だしじゃないんですけれども、もっといいものがあるのに、いいものをいいんだよという何か推しがちょっと足りない。新聞記者がだらしないのかもしれませんけれども、今、「びわ博フェス」と「ポケット学芸員」というような単語を聞いて思いました。思いつきでしゃべっただけですけれども、すみません。

○事務局（企画・広報営業課長）：事業目標３と４の担当ではないんですけれども、企画・広報営業課からお返事したいと思います。

確かに琵琶湖博物館は広報力がとても弱い感じがして、内部的にはとても頑張っているんだぞと思っているんですけれども、ＳＮＳはインスタグラム、旧ツイッターのＸであるとか、フェイスブックとか、そういうところで今年度は特に、週１回以上、何かコンテンツを出していくというような形で、出せる情報が出てきた段階でどんどん出していくというようなことを、資料提供も含めてやってはいるんですけれども、なかなか話題に上っていかないというようなところが、逆に我々としても非常に悩んでいるところでして、どうやったらもっと県民の皆様であったり、いろんな方々に琵琶湖博物館のことを知っていただけるのかというようなところを悩みながらやっているところです。ぜひお力をお貸しいただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

○会長：ありがとうございます。今の広報のてこ入れということに関して、ご意見等、こういう方法があるよ、とかいうことはございませんか。お願いします。

○委員：今、委員がおっしゃったのは本当に同感でして、出せるものは出して、広報して回すというのが逆にぼけるというか、何か特化した出し方というか、前々から課題になっていたのがここへ来るまでのアクセスがよくない。時間があったり、こういう博物館にすごく興味を持ってくださっている年配の方が来にくいとかいうところがあろうかと思うので、例えばちょっと予算的に難しいかもしれませんけれども、何か県庁バスでも走らせて、この日は高齢の方、どうぞ来てくださいみたいにして、一回来てもらう。そ

したら、その方が、あっ、これは面白い。これは孫を連れて来ようみたいな感じで広がるとか、ルミナリエとかでも障害がある方、お先にどうぞみたいなのをバーンと出すから、障害者の人がばっと行って、すごいきれかったって言うから、一般の方も来るみたいな、何かちょっと火種を絞ったほうが広報にはよくて、記者さんもそれに飛びついてくださって、委員が旗を振ってくださったら乗ってくださる新聞社もあるかもしれないので、リニューアルされてよくなったらしいとか、これこれがすばらしいとかでは、なかなか情報があふれている中で選んではくださらないんじゃないのかなと思います。

アプリに関しても、私も最近ちょっと来たんですけども、前は「びわ博ナビ」で、それが視覚障害の方がそのポイントが分からないという話があって、なかなかうまくいかなかったのが、「ポケット学芸員」さんになったら、質もすごく上がってるなというのは感じたんですけれども、それも今、日本語から英語、英語から中国語、まだちょっと途中ですけれども、英語はありかな。ブラジル籍の方が多数いらっしゃるので、ポルトガル語の音声ガイドがついてますよっていったら、ブラジル国籍の方がどこに遊びに行ったらええやろ、何書いてあるのかもう一つ分からないしと思ってらっしゃるところに、そういうガイドがポルトガル語も率先してつけてますみたいなのがあったら、その方々を一回呼び込むみたいな、何かちょっと絞った広報をしてみたらどうかなと思います。

だから、いいものがあっても、それを対象の方にどうやってつなぐか、アクセスしてもらうかというのがすごく肝になってくると思うんです。いいものがあっても、それをどう伝えるか？例えば、白杖をついていらっしゃる視覚障害の方がガイドヘルパーさんと一緒に来館されていたとしても赤い服を着たサポーターの方が、その当事者さんに「こういうアプリがあって、音声でガイドできますよ」というふうに、ご本人に言うことで、「ああ、そういういいものがあるんや」ということで試されて、同障の視覚障害の方に伝えるということはすごくあるので、一回そういう方法はいかがかなと思います。Ｗｉ－Ｆｉの拡充も全然知らなかったので、今ちょっと試したら、ぽんぽんとフリーＷｉ－Ｆｉがつながったので、それもアクセスする手段をサポーターの方が、どうぞ、これＷｉ－Ｆｉつないでみてくださいとかいうふうな声かけをしているかどうかですよね。だから一回来られたら割とつながって、でも、メールアドレスを入れないと接続完了には至らなかったりするので、その辺、うまく使っていただく声かけであるとか、ちょっとソフト対応も含めて考えていく必要があるんじゃないかなと思いました。以上です。

○会長：ありがとうございます。今のコメントについてお願いいたします。

○事務局（環境学習・交流係長）：コメントをいただきまして、ありがとうございます。

事業目標３のところの広報力と発信力のところなんですけども、報道関係の方々と、あとマスコミ関係の方々は、今年の「びわ博フェス」の場合はテレビ局、ＢＢＣとあと新聞各社が来てくださいまして、けれども先ほどのコメントのとおり、まだまだ知られていないというところ、広報力が弱いところというのが現状ではあります。

一方では、博物館は当係ではテーマ別で地域社会に直接発信したり、あるいは関係の環境団体に直接発信したり、呼びかけしたり、そのようなことはさせていただいておりました。今年の場合は、呼びかけによって参加者同士でより深い交流ができるような形で進めさせていただきました。だけれども、現状としましては、まだまだ不十分なところがあります。今後ともいろんなところでアドバイスいただけたらありがたいです。

○委員：ただいまのびわ博フェスのことなんですけれども、以前、私は「はしかけ」として参加させていただきました。そのときはコロナの前ということで、かなり参加者も多く、飲食店なども玄関前に出店されたりとか、非常ににぎわいがあったんですけれども、やはりコロナということで随分トーンが下がってしまったということがあって、それが去年久しぶりに開かれて、そのとき展示を見せていただいたり、とても楽しく私たちも一参加者として見せていただいたんですけれども、今年は展示の依頼が来まして、私は子どもたちと一緒にホタルや生きものを通して、学校と地域をつなぐ活動をしているのですが、その子どもたちの作品を展示させていただきました。それは私たちのグループにとっても大きな励みにもなりましたし、今回は特に、「３分間トーク」というのがありまして、その「３分間トーク」の中で自分たちの活動報告であったりとか、また博物館からの質問であったりとか、そういったことで交流が初めてできたというか、いわゆる展示しているもの、それからまたワークショップとかブースを出した人たちとの交流の場ができたという点では、非常に私は評価しています。それはふだん、「はしかけ」さんは一体何をしているんだろうとか、そういうことがあって、いつもニュースレターでは分かるんですけれども、実際の生の声を聞いたりとか、そういったことでは「３分間トーク」、短い時間ではありましたけれども、交流ができたということは非常に私たち参加した者にとってはよかったなと思います。

ただ、交流はとってもよかったんですけれども、ワークショップとかブースショップ

とか、そういったところに参加する人たちは、コロナの前のほうがずっと多く参加しておられたと思いますので、多分これからまた浸透していくんじゃないかと思うんですけど、博物館としても巻き返していただきたいなというのが今の思いです。

○事務局（環境学習・交流係長）：ありがとうございます。とても励みになります。

今年の課題は、びわ博フェスを改善しつつ、昨年度は１年目で今年は２年目で改善、毎年バージョンアップさせていきながら試行錯誤もしながらしておりますけれども、今のコメントの中に出たようなポイントのところと重要なところ、あとはできていないところもありまして、交流会という形で昨年度はシンポジウム、今年は「３分間トーク」という形で、同時に参加者同士の交流会を中心にしながらという形で実施しておりますが、来年度以降もぜひ違う形や、あるいはもうちょっとバージョンアップした形でびわ博フェスを実施していきたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

○事務局（展示係長）：事業目標４についていただいた質問等に少しお答えしたいと思います。

音声ガイドシステムにつきましては、昨年度まで使っておりました「びわ博ナビ」が諸般の事情で使えなくなったということで、「ポケット学芸員」になってなぜ広報しないのかというふうに、皆さん、疑問に思われたと思うんですけれども、実際問題として「びわ博ナビ」で使えていた言語がまだ半分も戻っていない状態でして、「ポケット学芸員」は実は当館のデータベースにも関わっている早稲田システムさんという会社がつくっているものでもありまして、幅広く全国の様々な博物館が音声ガイドとして使用しているものです。当館でももともとはオリジナルのアプリをつくっていたんですけれども、そこに多大な投資をするよりは、いろんな博物館がつくっているものの中でオリジナルのコンテンツをきっちり載せていくほうがコストパフォーマンスも大変いいですし、その方向に切り替えたわけですけれども、何せ切り替える前の状態までまだ全く機能が戻っていない状態でして、できましたというには日本語だけではちょっと恥ずかしいかなというのが現場の人間としては少し思っていたところもあります。もうちょっと言語が増えてからのほうが、特に英語の利用希望というのは大変多かったんですけれども、なかなか使っていただけない心苦しい状況が続いておりましたが、やっと英語が完成しましたので、より広く多くの人に使っていただけるようになります。助言をいただいたように、ポルトガル語なども琵琶湖博物館開館当初の音声ガイドにはありまして、当時

はＣＤとかそういうものを使ったシステムで、今とは全く異なっていたんですけれども、その時代に想定した利用の方向に少しでも戻して、さらに情報を載せていけるようにというふうに、今いろいろ試行錯誤で考えておりますので、また今後努力していきたいと思います。少しでも便利に使えるようにと思っております。以上です。

○会長：ありがとうございます。ほかに、今の広報関連、「びわ博フェス」関連でございますか。

○委員：実はこれ、目標１でもそうですけども、次、多分これから発表していただく事業目標５でもそうなんですけども、ちょっと自分のところの話で恐縮なんですけども、うちの法人も、例えば何か情報があったと、そういう広報担当の人にどうしていますかという話をしたときに、ああ、ネットに載せましたみたいな。何が言いたいかというと、このネット社会の弊害とまでは言いませんけども、どこかネットに上げました、何かに上げましたというところで、担当の方がそこで完結してしまう傾向がちょっと強いなという気がしていて、うちの法人ではもう一度、それはそれで引き続きしながらも、アナログの大切さというか、出会いであったり、例えばうちだったら、コロナが収束して、今までオンラインで可能なのもあるんですけども、やっぱり人と人が向き合って、そこで感じる温かさであったり、喜びであったり、何かそういうところをいま一度大切にしませんかという問いかけを私たちも今しています。

琵琶湖博物館さんは当然、両輪でやっていらっしゃるなとは思いつつも、ネットに上げておけばいいんだということで終わってほしくないというか、世界に紹介のところもそうですけども、確かに世界まで広げたときに、何がどうできるんだと言われたときに、一つは、簡単にネットに上げるのは方法の一つではあるんですけども、もう一回原点に立ち返って、ここで何か少し学びの場であったり、研修をしたり、そこで実際子どもさんから大人も含めて新たな喜びがそこで感じられるみたいな、地道な努力というか、人と人が出会うことで何か生まれてくるもの。そこから広がっていったものというのがやっぱり博物館への興味であり、愛であり、そういうことが深まるような気がしていますので、全体的にこの報告書を見ながらでも、様式を見ながらでも、ネットに何々しました、何々しましたという、それはそれでいいんですけども、そこだけで終わってほしくないという、そんな感じがしています。

○会長：今のコメントについていかがでしょうか。

○事務局（企画・広報営業課長）：もちろん、琵琶湖博物館の設置理念とかもそうですし、これまで30年弱博物館をずっと運営してきて、一番大事にしているものというのは、博物館での交流という部分だと、多分私だけじゃないと思いますけど、みんなそう思っていると思います。そのために展示室での展示交流員というものであったりとか、博物館も、学習という部分とか教育という部分も含んだ全体としての交流というような事業として進めているというのが我々の考えです。

ＩＣＴというのは、今、国とか県とかいろんなところで利用するということで、それをうまく使うことによって、今まで以上にもっと発信ができるツールとして、そこはどうしても今メインになってしまうところなんですけれども、今回の水槽の破損とかを受けて、展示でイラスト展をやったりとか、今、第３期のイラスト展をやっているところです。イラスト展でたくさんの方が応募してくださったりとか、応援メッセージというような場所を設けて、何か書いていただくというような場所をつくると、ものすごいたくさんの応援をいただけるというところがあって、いろんな方が琵琶湖博物館に対する期待であるとか、琵琶湖博物館で何かできるんじゃないかというような思いで、「びわ博フェス」とかにも集ってくれているんじゃないかなというようなことは非常に感じているところですので、そういった部分をもっと大事にしているよというようなこともちゃんとアピールしていけるというようなことがもっと大事なんじゃないかというようなご意見として承りましたので、肝に銘じて頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

○会長：ほかによろしいですか。

○事務局（環境学習・交流係長）：環境学習・交流係の事業の中から、交流係事業と関連しながら報告させていただきます。１つ挙げさせていただきますと、学校団体・地域連携という事業がありまして、その中で特に直接お会いしてお話をした形で、どのような方向でやっていこうかとか、あるいはフェスのこともそうなんですが、交流イベント系のもの、企画段階から参画していただくというような方向で昨年度から模索しつつ、来年度以降もさらにその辺も含めて深めていきたいというふうに考えておりまして、また環境学習関連で、淡海こどもエコクラブというのを今年は重視しながら、大人も子どもも含めて交流会という形で直接意見交換など、そういうような場と機会を設けさせていただきました。以上です。

○委員：ついでに言うと、今、自分でも思い出したんですが、実はうちの娘がもう30過ぎたんですけど、本当に小さいときにここに通って、目を輝かせて、あそこの昔の歴史をたどるところとか、琵琶湖の地図がありまして、あの辺を本当にもう気に入って、目を輝かせて、何回も連れて行って、連れて行ってと言って足を運んでいたときの思い出があって、同じように、多分今もいろんな出会いと、いろんな子どもさんたちが何か一つ一つの場面であったり、本当に子どもさんたちが目を輝かせている。それは映像なのか記録なのか分かりませんけども、ちょっとそういうのをもうちょっとどんどんアピールしていただいて、ここでこんな出会いがあったんですよ、こんな喜びがあったんですよというのをもっと強調してもらって、それだけここはもともとそうやって、今もそうでしょうけども、輝けるところだった。子どもたちにとってもそういうところであったし、あってほしいと思っています。そういうのはやっぱりネットを上手に使いながら、何かきらきらするようなところってまだまだあると思いますので、そういうところから発信する。派手な路線でいくことも大事ですけども、西川（貴教）君あたりにいろいろＰＲしてもらうとかというのも、それはそれで大事なんですけども、もっと地道な喜びというか、そこから何かじわじわと広がっていくみたいな、そういうところにこの琵琶湖博物館の存在意義というのがあるような気がして、それが最終的に琵琶湖も愛して、琵琶湖の環境も守っていこうという、何かそこに全部つながっていくような気がするので、そういうちょっと細かな事例集をもうちょっといろいろアピールしてもらったらいいかなと思います。

○事務局（展示係長）：今いただいたご意見に関して、少し補足させていただくと、展示室に立っている赤いユニフォームを着たスタッフは、当館の展示交流員の人たちです。そもそも展示交流員を導入した私たちの意図としては、展示を解説するわけではなくて、来館者と交流をして、来館者からいろいろ教えてもらい、博物館のことについて一緒に語ったり、学んだりするというような位置づけでスタッフを置いております。コロナの間、やはり展示室で話し込むとか、そういったことが若干遠慮せざるを得なかったところがありまして、展示交流ということは、もともとは大変力を入れていたところだったんですけれども、それを少し遠慮がちにしておりましたところ、そろそろただの係員ではなくて、展示交流をするスタッフとしての運用――皆さん、いろんな方の顔を思い浮かべると、運用という言葉がふさわしいかどうかは分からないんですけれども、そうい

う機能をもっと発揮させていくような形にしたいと思っております。

展示交流員は過去にも、コロナ前までなんですけれども、各人がどんな交流があったかというのを全てメモに残しており、交流ノートといって来館者とこんな話をしました、こんなことがありました。場合によっては何年にもわたる交流が展示室での展示交流から広がっていくようなケースとかもありまして、そういった記録もこちらのほうとしてはたくさん残しております。それは展示の内容が変わっても、人が入れ替わっても、琵琶湖博物館が意図している機能としては、そういうものは大変大事なものですので、今後はまたそういった機能を充実させていって、それをもしかするとどこかの段階で、広報手段を使って発表していくなどできれば、ただ展示を見てもらうところではない、専門的なことを学ぶだけのところではないという、利用される方を含めて我々にとっても思い出というか、記憶にちゃんと残る博物館という位置づけでいろいろ発信などの事業展開なりをできたら、それが一番いいことだと思っておりますので、助言をいただいたので今後頑張って進めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

○会長：ありがとうございます。

私からも１点、展示の成長ということに関係して質問させてください。リニューアルが終わられた後も小規模、中規模の内容更新が続いているということだったんですが、今度展示室に行ったときに、あっ、ここが更新されたんだなというふうに見たいので、何か事例を教えていただきたいのと、できれば何か調査の進展だったり、研究の進み具合だったり、その展示がリンクしているようなところがあれば、ここが更新されたところだよというのを教えていただけないでしょうか。

○事務局（展示係長）：常設で展示を増やしていったり更新をするというのは、いろいろ予算措置も伴うものなんですけれども、それぞれの展示室で特に今、盛んに行われているのが、Ａ展示室、Ｂ展示室において期間限定の展示というのを行っております。

Ａ展示室は非常に琵琶湖博物館らしいと思うんですけれども、学芸員だけではなくて在野の研究家の方たちがこれまで何十年もかけて集めてこられたようなコレクションを紹介して、一緒に来館者の方にその方ご本人が説明をされたりとか、そういう交流をするのを学芸員と相談しながらやっておられたり、Ｂ展示室では学芸員のこだわり展示といいまして、年間何台ぐらいかな、資料の種類にもよって長期にできないものもあるんですけれども、１か月、２か月単位で学芸員が見せたい資料であったり、そういったも

のをちゃんと展示をして、トピック的に例えば干支にまつわるものであったり、ちょうど今、龍骨図という、昔、象の化石が見つかったときに竜の骨ではないかといって描かれた竜の絵を干支にちなんだことでもありますし、展示をしているような状態で、収蔵資料のお披露目と、あと学芸員の研究成果の発表のような場で運用しております。Ｃ展示室はそういった意味でちょっと使い勝手が悪いところもありまして、なかなかうまくは回せないんですけども、そういう小規模な形での研究成果の発表はしているところです。ありがとうございます。

○会長：ありがとうございます。展示室に行くたびに、新しいところが見られるのを楽しみにしています。

それでは、続きまして事業目標５・６のほう、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（企画・広報営業課長）：事業目標５と６についてご説明いたします。

事業目標５は、10ページ、11ページです。事業目標５は、「より多くの人が利用する博物館へ」というような目標を立てて、５－１、５－２、５－３の３つの重点事業を展開しております。

５－１、ＩＣＴを活用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介ということで、この５年計画の中で変更したのは、琵琶湖紹介の動画を計画するというふうになっていたんですけれども、動画はまた学芸員等の研究について、今、コンテンツを毎年４つないし６つの動画を制作しているところなんですけれども、動画で紹介するよりも、まずはきちっとしたページを作る必要があるんじゃないかというようなことで、動画というのをやめて、ページというふうに変えさせていただきました。文字と写真による紹介にしたいということです。

５－２は、双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映ということで、変更した部分は、来年度に学校等団体の利用に関するヒアリングの解析ということで、今、小中高の学校を回りながら、校長先生や、学校の方に、琵琶湖博物館どうですかと聞いているところです。そのほかにも学校対応、学校団体の申込みを、学校の教員で、交流でこちらに数年いる方が対応しているんですけれども、学校等から聞いている内容が、そういった担当レベルでこんなふうに考えている学校が多いというふうに理解しているだけですので、そういった団体の方々が琵琶湖博物館に対してどういう思いを持っているかというようなことをきちっと解析して、博物館全体として情報共有したい

というようなことで、こういう計画にさせていただいております。

５－３が「来館しやすい環境の整備」ということで、前回の博物館協議会でも大変ご議論いただいて、いろんなアイデアもいただきました。それがいまだ着手できていないというところが大変申し訳ないところなんですけれども、そういったことを今年度、来年度をかけて検討していく、改良していくというような計画にしております。

ただ、５－３に関しては、2025年度の計画がきちっとできていませんので、2026年度以降の５年間の計画と併せて検討していく必要があるかなというようなことを考えております。事業目標５は以上です。では、事業目標６をお願いします。

○事務局（総務課長）：事業目標６は、12ページ、13ページになります。事業目標６は、「博物館の活動を安定して継続する」ということで、２つの目標を掲げております。

６－１ですが、老朽化した施設の改修と災害への備えとなっております。外部委員の皆様からの意見でもやはり施設の関係のことにつきましては、「ぜひ予算の確保をして、計画的に修繕をするように」とか、「安全第一・健康第一で、従業員、第三者の利用ができるようにしていただければ」というふうな、前向きなご意見をたくさんいただいております。

前回の協議会でもご説明させていただきましたが、今年度につきましては、当館の施設関係の調査費というのを予算措置しておりまして、それで現在、施設関係の調査を実施しようとしているところです。今まであまりにもこの間、施設関係がたくさんあり過ぎますので、なかなか計画的な改修というのができていなかったところがありますので、それを今年度、調査をさせていただいて、次年度以降、その計画というものをつくりながら、必要な予算措置というのをまた要求していければなというふうに考えているところです。

また、６－２の「安定した活動基盤を確保する仕組みづくり」です。これは水槽破損の関係もございましたが、現在、クラウドファンディングをさせていただいております。おかげさまで大変たくさんの皆様のご支援をいただきまして、目標の達成、ネクスト目標という形で、倍にした金額も達成しているところです。また、企業向けのその関係での寄附というのも新しくつくらせていただいているんですが、それに向けてもたくさんの企業様のご理解等をいただいておりまして、たくさんの支援をいただいているところです。

現在そういう形で、これは2023年のところですけれども、実際、新しい制度もつくりながら、それの実施をしておりますし、来年度に向けて、今までからあります企業様のサポーター制度とか、従前の寄附等も全体的な形でどうあるべきかというのを見直し、確認しながら、併せて来年度も大きな水槽の改修を予定しておりますので、その部分でのクラウドファンディング等も並行しながら実施していければという形で、その部分を書かせていただいております。

なお、１つ補足をさせていただきますが、皆様からの意見の中で、トイレの改修、トイレが故障したままでしたが、それがようやく改修されまして、本日から使える状態になっております。複数の方から、早めに直すべきというふうなご意見をいただいておりましたが、完了したということをご報告させていただきます。以上です。

〇会長：外部評価の意見も反映くださり、ありがとうございます。

それでは、今、説明がありました事業目標５・６について、ご意見、コメント等お願いいたします。

〇委員：事業目標５で、アクセス解析について書いていただいているんですけども、アクセスを解析して、改善していくというのが2025のところにも書いていただいているとおり、ずっと定期的にやっていったほうがいいことなので、2024年にこの事業を進めて、その方法とかを知るのと同時に、どこをどう見て、どう改善していくのかという考え方を、その担当者だけじゃなくて、新しい人とか代わりの人でもできるような仕組みづくり。解析結果によってやることって変わってくるので、難しいと思うんですけど、基本的な部分は手順書を作るとか、考え方をまとめるとかでもいいですし、そういうところも同時にやっていくと、後々便利だし、この年が無駄にならないんじゃないかなと思います。以上です。

〇事務局（企画・広報営業課長）：ありがとうございます。私もこの件はとても苦手な部分なんですけれども、アクセス解析はGoogle解析のものが便利なので、当面はこれを見ながらというような形です。実際、今はどういう状況かというと、ほとんどの人が博物館へどうやって行くのかとか、料金は幾らとかというようなページです。それ以外に、博物館がこういう部分を見てほしい、使ってほしいというような、学ぶとか、調べるという部分のデータベースであるとか、琵琶湖博物館ってどんなところなのというような、ちょっと奥まったところにあるページというのは、あまり見られていないというのが分

かっています。そういうようなところをどうやったら見てもらえるのかというところが一番の問題なんですけれども、考えてみれば、ほとんどの人は琵琶湖博物館に行こうと思って、ページを見るという形だと思いますので、こういうところが多いのは当然だろう、それ以外の部分というのは、少ないといっても数万件はありますので、こういった方々がどういうことを望んでいるのか、どういうページのたどり方をしているのかというようなことを見ることによって、使いやすいページづくりというようなことを今は目指しているところです。

○委員：ページの改善というところは仰っていただいたとおりなんですけど、ページに来ていただくためにどうしたらいいかというところに関しては、今、クラウドファンディングをやられていると思うので、クラウドファンディングの業者さんがどういう感じでやられているか分からないんですけど、多分、クラウドファンディングのページに来ていただくための解析もいろいろ見られていると思うので、どういう感じの観点で見ているのかとか、どういう人が来てくれているから、どういうふうにしているのかとか、そういうのも聞くと参考になるんじゃないかなと思います。

○事務局（企画・広報営業課長）：ありがとうございます。今やっているクラウドファンディングも定期的に打合せをしていて、どういうところからそのクラウドファンディングのページにいっているのかというような解析とか、結果も毎回聞かせていただいていますので、そういうものも参考にしながら、これは毎年というか、定期的にずっと見ながら、どう改善するかというのを考えていかないといけないことかなと。先ほど委員も言われたように、この年だけやればいいというものではないと思いますので、今後続けていきたいと思います。どうもありがとうございます。

○委員：６のことに関して、この後、クラウドファンディングというか、こちらの話もあるかと思うんですが、その辺は皆さん方のご想像だと思いますけど、ちょっと厳しい言い方をすると、次本当にまた同じようなことというか、大きなところで、要は全体として老朽化しているわけですよねと。次も同じようなことがあって、どうしようもないので、クラウドファンディングはクラウドファンディングでよろしいんですけども、その頼り方でいくと、どうしてもそれは世間的には、博物館さんもですが、私は滋賀県としても、それは恥ずかしいことですよと。見る人が見たら。私らの施設でもそうですが、大規模修繕がある程度想像がつくものは、当然、大規模修繕としての予算化をしていき

ながら、何とかその予算の中で、幸い壊れずに済んでぎりぎりでいくというふうな段取りというか、そこが当然されているとは思うんですけども、我々の協議会委員の中でも、その後の報告でも結構なんですけども、何か具体的にこういうところを想定しながら、大規模修繕につなげるような予算化を立てているのか、もしくは本当にもう祈るような世界なのか。ちょっとそこいらも含めて、今回のこの事故というか、これを受けて、本当に皆さん方も含めて、滋賀県としての取組としても、本当にこの博物館を今後どう生かしていくのかという、そこいらの姿勢が要は問われると思います。

それぞれの施設、どこでもそうですが、やっぱり30年過ぎてくると、本当にいろんなところが傷んできますし、それに見合わせて、それぞれの毎年の予算の中でも大規模修繕のために、これだけはストックしていこうとか、そういう動きをされているわけですから、少し我々レベルでも何か見えるものをちょっとお示しいただければなと思っています。

○事務局（総務課長）：まず、大規模修繕というのは、うちでは「長寿命化」というふうな言い方もしているんですが、そういう形で一定、躯体に係るような修繕というのは、計画を立てて、県全体で必要なタイミングでの予算措置をしてやっている部分があります。今、ちょうど来てもらっている別館と言われる、ここの建屋の前のところも工事をしていまして、それは屋根が雨漏りしているので、今、それの修繕をしています。そういう大きな工事とかは一定間隔で予定をしながら修繕しておりますけれども、実際にそれに係らないような、当館で言いますと、エアコンが壊れるでありますとか、もっと細かな設備関係での傷みというのは、特にそういう計画というのをつくって実施しているわけではございません。ですので、今回のも先ほど言いました設備関係の調査をするというのは、まさに当館の中にあるどういう設備が、どれぐらい耐用年数が過ぎていて、今後どれぐらいのペースで直していかないといけないかというのを洗い出して、それをできるだけ速やかに改修できるようにもっていきたいと思うんですが、あとは予算との関わりの中での話にはなってきますけれども、今までそういうのが実のところ整備できてなかったというのをやろうとしているところであります。ただ、県全体では先ほど言いましたように、躯体に係るような大きな部分での計画というのは一応つくっている形になっております。

○委員：ある意味、水槽というのは多分現在進行形のものだと。どういうことかというと、

過去に50年、100年の歴史的な経過があって、こういう使い方をしたら、こういうふうに壊れていくというデータが多分あまりない世界だと思うんです。だから、今それぞれの水族館とかがやっぱり30年、40年たちながら、じゃ、実際どうなのって、本当にそこは手探りのところもありながらの現在進行形のところだと思うので、予算化するのは多分厳しいと思いつつも、ただ本当に祈る世界ではないところで、同じことが起きないでくれと皆が祈っていらっしゃると思いますが、そこいらを少しでも、やっぱり現在進行形でありながらも、リスクをどういうところだったら探っていけるのかというのは、それは皆さん方専門の方々、水槽を管理している方々としても、今回のことでいろんなデータが多分蓄積されたと思いますので、そういう形で我々もそうですし、本当にお客さん、県民の方々に何か少し安心感を与えるような、いや、まだ実は手探りなんです、祈る世界なんですなんていうことではないような安心感をまた発してもらえたらなと思っています。

○事務局（総務課長）：ありがとうございます。水槽の関係は今回の破損という事故が起こって、改めて水槽全体の安全確認というのもさせていただいて、その中で幾つか、今、水を抜いているところもございます。ほかの展示物についてももちろん、絶対倒れないとかいうことはないと思いますので、それはまた日々の中で確認もさせてもらいながら、皆様に、安全で安心に見ていただける環境をつくっていければと考えております。

○会長：ありがとうございます。水槽については、この後、資料４を踏まえて、もう一度話し合う機会がありますので、今は５・６も含めまして、１から６の事業目標全体につきまして、もう一度全般を見ていただいて、ご意見、コメント等お願いいたします。

○委員：今、そういうふうに会長が言ってくださったんですけど、クラウドファンディングの使い方についてなんですけど、私、全然別の現場で通訳をさせてもらって、あっ、なるほどな、と思ったことがあって、クラウドファンディングというのは資金集め、ファンドという部分と、今、委員が言われたみたいに、みんなが見守っている中で、最終的にすごいいいものが改修できましたというのではなくて、例えばほかの水族館のこの材質のものがよさそうなので、こういうふうにやってみようと思いますみたいな、経過も全部見てもらう。その話のくだりは、クラウドファンディングはファンを増やすという意味もあるんだという話をされたんです。だから、こんなふうに琵琶湖博物館はすごく努力して、全国にあるいろんな水族館の水槽の材質をこういうふうに取り寄せて、こ

れにはお金が足りないし、こうしてああしてというのをやっているんだという経過を見せることが最初の発信力にもつながると思うんです。そういうところも見せつつ、みんなでつくり上げていく水槽が、いいものができたねっていうような着地点にもっていくという、その経過も大事じゃないかなと思うので、ぜひそういうことを発信していただきたい。それをきっかけに、琵琶湖博物館、あっ、草津にあるんやみたいなことでファンが増えて、お金もたまっていくみたいな。そして、水槽がいいものができました。お守りのために、少し貯金もできましたではなくて、ずっと見守ってもらえるような見せ方とか、関わり方を発信するというのも大事じゃないかなって思います。

それと、故障のことで、いろいろ老朽化があるとか、機器に関しても故障があると思うんですけれども、先だって、私、寄せていただいたときに、真ん中かどこだったかな、お祭りというか、村人が集まってお祈りするみたいなブースのところの大きい画面が故障で、今も故障しているのか知りませんけど、「故障中」と書かれてたかな、故障しているにしても、画面はついたままだったんです。「故障中」というのは、ものすごく怠慢なイメージが伝わるんですね。故障していますって、いや、故障してたら直せよと思ってしまうので、その画面は取りあえず電源を切る。そして「調整中」とか、ただいまこういう段取りをしていますので、しばらくお待ちくださいみたいな、経過が見えるような表示をするというのも、来てくださる方々への配慮じゃないかなと思って、交流員さんにはあそこの画面の電源は切ったほうがいいと思いますよと言い残して帰ったんです。

それと、障害者用トイレを私、時々使うんです。なぜかというと、県庁内の障害者トイレですが、よかれと思って、ぱっと窓を開けていることがあるんですけど、その後に雨がざぁーっと降ってきて、開けっ放しで、雨が吹き込んでいるということがあるんですね。お使いになる方は基本的に障害のある方、車椅子の方とかがお使いになるので、それを重い重い窓を閉めるということも難しいですし、振り込んだ雨水でトイレットペーパーが濡れてしまうということもあったんです。なので、私、時々使って、トイレットペーパーが少なくなっていたら換えるとか、そんなことも時々するので、琵琶湖博物館の職員さんも、障害者トイレをぜひ使っていただきたい。どこのトイレだったかな、入口を入ってすぐ右手の障害者用トイレのトイレットペーパーがすごい取りにくい高さなんです。それで、とても不便で困っているんじゃないかなという想像もあるので、そ

ういうところも一回自分で座ってみて、トイレットペーパー、この向きで取れるんやろうかとか、ちょっとそういう思いをはせるということをぜひしていただきたいなというのをすごく感じます。古いからあかんではないんですね。古くても、ちゃんとそういうソフト的な対応があればいいわけです。汚いと古いはまた違うと思うので、危険なことはもちろん優先順位を上げていただいてでも直していただかないといけないと思うんですけども、古いことが全て駄目とは、私は全然思わないので、ぜひその辺をソフト対応していただけたらなと思います。

それと、もう一つ、ちょっとかなうかどうか分かりませんけども、先ほど委員がおっしゃったことにつながるんですけど、塗り絵のコーナーがありますよね。あれ、うちの孫もすごい喜んで塗って、そこで外国籍の子どもさんと、コミュニケーションにならないコミュニケーションで、うまく塗ってるねみたいな、会話はしないんですけど、すごい褒め合って、とてもにこやかな、和やかな空気感があったんです。そういうのをおみくじみたいに、あそこにつって帰るみたいなシステムになっていて、来た方が、ほかの人、どんなふうに塗ってるかなあって見るのはいいんですけども、来れない人とか、自分が塗ったものを置いて帰るだけじゃなくて、それこそそれを取り込んで、琵琶湖博物館のホームページを見たら、あっ、僕が塗ったのがこんなふうにアップされてるやんとか、そういうふうに次につながるとか、家に帰ってからもわくわく感が残ってるみたいな、インターネットを使いつつも、ちょっとアナログ的なものが何かできないかなって思いました。以上です。

○事務局（総務課長）：ありがとうございます。クラウドファンディングにつきましては、確かにいろんな応援の声もいただいておりまして、先ほどおっしゃっていただいたように、琵琶湖博物館のファンを増やすという形にもつながっていると思います。ただ、おっしゃられるように、それに頼りっ放しというか、何かあればクラウドファンディングを頼るというのがいいかどうかということも、今後また考えていかないといけないかなと考えております。

障害者さん用のトイレで、ちょっと私も確認してないんですけれども、確かにトイレットペーパーは使いにくいところにあったという件はあったと思いまして、そこはおっしゃっていたところかどうか分からないんですけれども、場所を変えたところがあったと思います。またできましたら、ご確認いただければと思います。

○事務局（展示係長）：委員がおっしゃった展示室での「調整中」表示の件、表示自体は「調整中」を基本に使っております。展示室で指摘を受けたことは展示交流員からちゃんと学芸員には報告が上がってきておりまして、ちょっとご指摘いただいた意図が全ては酌み取れなかったんですけれども、現在、「調整中」の表示の見直しをしております。電源を落とす件につきましては、使用する機器によって簡単に落とせるものと、一回落ちると復旧が大変なものなどがありまして、大きなプロジェクターを使って映写しているタイプのものなどは、展示交流員さんでは勝手に落とせないようになっております。今はもちろん、そのような不調に関しては、大体その日のうちには解消しておりまして、短ければ30分以内ぐらいにはスタッフが行って直すこともありますし、10分後に直ることもあります。それは、当館は大変幸せなことに、館内に修理スタッフをいろいろな立場の者を抱えておりまして、その者がすぐに行って対応しているケースもあります。場合によっては少しそのままになっていることもありますけれども、基本的にはすぐに対応するようには努力しております。

また、見え方の問題だと思いますけれども、それに関してはちょっとまた検討して、使えないこと、修理中であることを見る方があまり不快に思わないようにという対応は、ちょっと今後考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

○会長：ありがとうございます。まだまだご意見はあろうかと思いますが、時間もありますので、こちらの議題は終わらせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員：５－１と２－３のところ、ＩＣＴにも関係するかもしれないんですけど、「ものすごい図鑑」って、皆さん、ご存じですか。今調べたら、「ＮＨＫ for School」なんですけど、うちの子どもが小学生で、いつも学校から帰ってきたら、ゲームだとかユーチューブをずっと見ているんですけど、最近は、帰ってきたら、「ものすごい図鑑」を見るんだというので、植物とか昆虫の成長とかが３Ｄで見れるものをすごく興味を持って見ています。

博物館のホームページも奥まっているページは見てもらえないとか、３Ｄコンテンツというのも、私も土器のものを触らせてもらったら、すごく面白かったので、何か学校の教育の授業の中で、「ものすごい図鑑」を先生が教材として使われていらっしゃったそうなんです。なので、博物館のこの３Ｄコンテンツみたいなものも、社会の授業で土

器、みんなでこのページで見てみようみたいなふうに取り入れてもらえたら、すごくいいんじゃないかなというふうに思いました。

委員のご意見の塗り絵を取り込むの件なんですけど、思い出したのが、数年前に佐川美術館で、「デザインあ展」というのが開催されたんですね。そのときに信楽のたぬきをいろんな角度から子どもたちが描いた絵がやはり取り込まれて、おうちに帰ってからも、何月何日、何時ぐらいに来館したというのがざぁーっと出るというので、家族全員でやっぱりサイトを見に行くんですよね。そういう感じになったら、今おっしゃっていたみたいに、おうちに帰っても家族の人、行けなかったおじいちゃん、おばあちゃんも一緒に博物館に思いをはせてもらえるいい取組だなというふうに思いました。以上です。

○会長：回答よろしいですか。それでは、今後の予定について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（企画・広報営業課長）：今後のスケジュールですけれども、今回ご議論いただきました見直しの件も含めまして、令和４年度事業の評価という形でまとめて、内部評価・外部評価を含めて、計画の見直しも含めて、博物館のページで公開させていただこうと考えております。

その後、今年度もあと２か月ほどになりましたが、今年度の博物館事業の評価に関しては、来年度早々にでも当館の内部で内部評価という形で実施させていただきます。

次回の博物館協議会は６月か７月ぐらいを考えておりますけれども、また日程調整をさせていただきます。その場で今年度分の事業について、内部評価はこういうような評価をいたしました、こういう事業をしましたというようなことをお示しいたしまして、その後、皆様に外部評価をしていただくというような流れになっております。

今期の博物館協議会は今年の８月末日までがその期間というふうになっておりますので、次回の博物館協議会とその後の外部評価までを皆様に実施していただくということになっておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

それと、現在、今日もご議論いただきました重点事業計画は 2025 年度までの計画ですので、この中長期基本計画は 10 年計画ですので、2026 年度以降の５年間に関しては来年度から内部で議論をして、計画を立てていくというようなことになりますので、ま

たそういったことも含めてご意見をいただくというようなこともあるかと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。スケジュールは以上です。

○会長：ありがとうございます。毎年、内部評価と外部評価を行っていくということで、また来年度、今年の夏に外部評価を行うということで、委員の皆様は引き続き、展示や博物館全体の様子、あるいはウェブの状況などについて目配りいただければと思います。

３　報告事項

（１）水族展示室の水槽破損事故について

○会長：次第の３の報告事項「水族展示室の水槽破損事故について」、事務局から報告をお願いいたします。

○事務局（事業部長）：資料４になります。報告事項「水族展示室の水槽破損事故とその後の動きについて」

皆様、ご存じのとおり、令和５年２月10日、通称「ビワコオオナマズ水槽」が破損いたしました。事故当時の様子やその後の対応等につきましては、前回の８月３日の協議会でご説明させていただいておりますので、今回はその後の動きについてご報告いたします。

今回の事故の原因について、再発防止に向けて、第三者委員会を３月11日に立ち上げ、８月までに計４回の委員会を開催し、協議を重ねてまいりました。その後、９月１日に「滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故原因調査報告書」が同委員長から当館の館長に提出されました。

報告書はホームページのほうに掲載しておりますが、先ほど委員の方から言われましたとおり、ホームページに載せたところではありますけれども、詳細に後からでも、ほかの館からも参考になるだろうということで掲載をさせていただいております。

提出された報告内容について、簡単にご説明させていただきます。

「ビワコオオナマズ水槽」の破損は、複数の要因が重なり、生じたと考えられています。例えば建設から27年がたったアクリルの経年劣化の可能性、あるいは水圧と給水で変形するアクリルの特質に不適合な設置方法だったということ。それから、シーリング材に含まれた溶剤で発生したケミカルクラック、いわゆるひびがあった。

これらのことを踏まえて、根本的な要因としてはやはり、建設時における建設業者、あるいは電気業者等、いろんな業者が関わっておりましたけれども、アクリル製の水槽の特徴に関する知識の共通認識が不足だったというところになっております。

裏面をご覧ください。また、その報告の中には、次の点が提言されております。

一つは、水槽管理と安全の確立です。点検方法として、毎日の目視に加え、年１回、専門業者による点検を行うこと。また、水槽安全度基準を設定して、点検による安全度リストの更新を行い、計画的な水槽の更新を進めて安全性を確保していくという、そういった仕組みをきちんとつくりなさいということです。

もう一つは、壊れない水槽づくりと計画的な水槽更新をすることということで、再発防止と安全管理体制の継続が必要ですというところが提言されております。これらは今後の水族部門の運営等に生かす所存でございます。

続いて、水族展示室に関するその後の動きについてご報告いたします。

事故発生直後から水族展示室全体を閉鎖し、水槽の安全点検を行いました。その結果、トンネル水槽の水を落としている等、現状になっているところです。多くの方から早期の再開を望まれる声が大変寄せられまして、それにできるだけ応えられるように、今年度の前半は努力した次第です。

５月９日から、トンネル水槽、それからビワコオオナマズ水槽など、安全性に問題がある水槽は引き続き閉鎖し、部分再開ということにいたしました。少しでも水族展示で琵琶湖のすばらしさを伝えるために、水族企画展示も開催いたしました。このとき、展示構造の関係から、折り返し通路というふうになっておりましたが、事故から半年後、６月17日には全通路を再開することができております。

次に、水族展示の再生に向けての取組についてです。

報告書の提出後、提言に基づいて安全確保を最優先とし、令和６年度末に完全復活を目指して、現在、様々な取組を進めており、方針としましては、先ほど委員の方からもクラウドファンディングに関しての助言をいただいたところですが、地域の方々をはじめ、応援してくださる皆様とともに水族展示の再生を目指すということにしております。

その中で、県内だけではなく広く応援者を募り、再生の機運を高める機会と捉えるということ。それから、博物館が目指す「湖と人間」のよりよい未来を考えてもらうため

に、琵琶湖の価値やすばらしさ、びわ博の理念やその活動を発信していくことを推進するというふうに捉えております。

そこで、今年度2023年度はまず、「みんなでつくろう水族展示！」と題して、水族展示イラスト展を開催しています。黒川琉伊さんの「はじめてのびわこの魚展」をプレ展示と位置づけて、その後、３期で計画しながら、現在、第３期の「守りたい水辺の生き物」の展示会を行っております。

また、応援メッセージボードを８月以降設置いたしまして、来館者から広くメッセージをいただいております。先ほど言われた塗り絵のワークショップと展示というのも開催しておりまして、今後、先ほど議論いただきましたように、帰宅後もわくわくするような企画というのを考えていきたいというふうに思っております。

本日の協議会終了後、水族展示をご案内する予定ですので、もし委員の方々でお時間がありましたら、ご覧いただければというふうに思っております。

そして、11月15日から明日までですけれども、クラウドファンディング第１弾を実施しております。お手元のほうに、クラウドファンディングのチラシも置かせていただいておりますけれども、当初、500万を目標としていましたが、大体１か月程度でこの金額が達成したというようなことです。

既に委員の方からもご支援をいただいているところなんですけれども、本日午後１時30分時点で、753名の方から、総額1,116万6,000円といったご支援をいただきながら、また併せて、本当に温かい応援メッセージをいただいております。こちらのクラウドファンディングは個人向け用という形で始めたんですけれども、明日までですが、その後、企業・団体さんからは、寄附の受け皿を継続して動いていく予定にしております。

このクラウドファンディングのホームページには、水槽再建への思いをまとめておりますので、一度ご覧いただければ幸いです。実際の今年度の工事につきましては、トンネル水槽と希少種に関わるアクリル水槽の修繕は12月15日から現在も行っており、今年度末の完了を目指して進めております。

2024年、来年度には、「ビワコオオナマズ水槽」、またそのそばにあります「コアユ水槽」等の実施計画と工事を予定しております。2025年３月末完成を目指して頑張っているところです。

以上です。

○会長：ありがとうございます。ただいまの件につきまして、ご質問、ご意見等お願いいたします。

○委員：先ほど委員がおっしゃったことに関連するんですけど、クラウドファンディングというのはよしあしで、委員が県としての姿勢が問われるというふうにおっしゃったように、今回はアクシデントがあって、クラウドファンディングという形だったんですけども、琵琶湖博物館は何でもクラウドファンディングするんだなみたいな、そういうふうなことでは先ほどの委員の指摘にもあるように、やっぱり滋賀県としての姿勢が問われるというか、格というか、そこら辺はあると思います。

ただ、先ほど委員がおっしゃったように、ファンを増やすという、それはそれですごいいいことだなとも思ったので、今後、頼りっ放しではいけない、考えていかないといけないというので、継続的に考えられることなんでしょうけども、今の時点で館長とか副館長はどう考えておられるんでしょうか。

○館長：ありがとうございます。今回、クラウドファンディングでやっております部分は、アクリル板の取替えについてやっておりますけども、この部分は県のほうでも補正予算等で手当していただいておりまして、それはもうちゃんとできているんですけども、やはりみんなでつくる水族展示ということをこの機会にやりたいなと思いまして、それで今、2,000人、皆様方から何かお手伝いできないかというお声も頂戴いたしておりましたので、クラウドファンディングという形で実施させていただきました。

その結果、私、最初、500万円という目標は大丈夫なのかなとずっと疑っていたんですけども、１か月もたたないうちに皆様から寄附を寄せていただきまして、また第２目標の1,000万円も超えることができまして、併せてご寄附と一緒にコメントをたくさんいただいておりまして、応援コメントがありまして、そこに本当に琵琶湖博物館というのは滋賀県の宝だというふうに言ってくださる方もいらっしゃいますし、行ったことはないんだけど、これで知ったので、今度は行きますと言ってくださる方もありますし、出来上がったら、ぜひ見に行きますというふうなお声も寄せていただいておりまして、これはご寄附いただくためだけではなくて、やはり皆様方に知っていただくような効果もあったなと思っていますし、その声が私たちの励みになっているということもございます。

そんなことで、「みんなでつくる」という、先ほど委員のほうからもお話がありましたけれども、今回はアクリル板の取替えだけなので、その経過というのをちょっとお示

しできないんですけども、次のビワコオオナマズ水槽、コアユ水槽などの変更に関しては、少し時間がありますので、そういう中で経過ももし可能なら示しながら、「皆さんと一緒につくっている」という感じを発信できればいいなと思っておりますけど、担当の人もかなり忙しい状態になっておりますので、どこまでできるか分かりませんが、貴重なご意見を頂戴いたしましたので、検討していきたいと思います。ありがとうございました。

○会長：ほかにご意見はいかがでしょうか。

○司会（杲副館長）：副館長の杲でございます。

クラウドファンディングにつきましては、私は今年度からこちらに異動してきまして、最初どういうふうに取組を進めようかなと考えており、クラウドファンディングには抵抗がありましたので、県で一定の予算措置をしていただくというのが前提だと思っていました。しかしながら、今、館長から発言がありましたように、たくさんの方々から、何か力になりたい、自分たちも何かしたいというようなお声をいただきましたので、先ほどもありましたイラストの募集などもあわせて盛り上げていこうということで、クラウドファンディングを検討させてもらいました。今年度の約4,500万円につきましては、予算措置がある中でクラウドファンディングを実施しましたが、できる限り皆さんのお力も一緒に我々の力にかえて進めていきたいというように考えたところです。

本県では今まで何回かクラウドファンディングをしておりますけれども、あまりうまくいった例がございません。今回は我々、成功というような言葉は使っていませんけれども、比較的県庁からも連絡があります。いろんなシーンでまたしゃべってくれとか、教えてくれというようなことがありまして、できる限りノウハウとか、我々が苦労した部分について、こういうふうに進めたらいいですよという話はしたいとは思っています。ただ安易にクラウドファンディングに乗っかるというのは、抵抗がありますし、また、西川さんにメッセージをもらったら、結構お申し出が増えるんじゃないかというようなことを安易に思われたら困るなというように思います。ただでさえ我々、公立施設ですので、税金で運営しているところであり、それにプラス皆様の支援をいただいて直すというのは心苦しいところではあるんですけれども、皆様のご支援をいただきたいという趣旨を伝えていくように、真摯な取組をお見せしたいと思っております。

今回もクラウドファンディングの中で活動報告という形で、こういうことをやっていますというのを出しております。返礼品というのは「物」としては出せませんけれども、バックヤードツアーですとか、館長や私とは別の学芸の副館長と一緒に展示室を回るというようなことも出しており、こんな形ですよ、こういう形で博物館は運営していますよというのが分かるようお見せしています。来年度さらに大きな額のクラウドファンディングを実施したいと思っていますので、もっと皆様にも理解を得られるような取組として出していきたいと考えております。

○亀田副館長：もう一人の副館長の亀田です。

皆さんがおっしゃっていただいているとおり、クラウドファンディングは本当に単なる資金集めだけではなくて、いろいろな面で博物館をアピールするチャンスになっていたと思います。皆さんに応援していただいて、一緒につくっていく機運をつくれたという意味で非常によかったなというふうに思っております。実際にメッセージを読みますと、「昔、子どもが小さかった頃に何度も行ったことを思い出しました、支援します」と、博物館のことを思い出していただいたいう方と、「今回のことで初めて琵琶湖博物館を知りました、今度行ってみたいと思います」という、新たに博物館を知っていただいた方と、両方の方々からメッセージをいただいているのがわかります。本当に幅広くいろんな方々に博物館を思い出していただいたり、知っていただいたりした機会になったなというふうに思っています。

当初から、単に水槽破損に寄附をいただくというだけでなく、琵琶湖博物館はなにを目的としてどんな活動をしているところなのかという、博物館の基本的なことも紹介していこうということで、活動報告やメッセージをつくってきました。ですので、返礼品も、歴史に関することですとか、ほかの生き物に関する展示のツアーとか、水槽や水族展示に関わること以外も含めてリターンを用意しました。博物館全体で一丸となって博物館を紹介しながら支援をいただくということを目指してやってきています。色々な形で皆さんのご支援をいただきながら、また博物館活動を進めていきたいと思っているところです。

○委員：「滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故原因調査報告書」ですが、ホームページのニュースをだいぶ遡っていたら発見できて、今、ＰＤＦを見させてもらっているんですけど、29ページの「琵琶湖博物館水族展示安全度リスト」というのを拝見させていただ

いています。ここで「安全度」で危険というのはD、すぐに使用を停止するというところに今回のビワコオオナマズ水槽とか、コアユ水槽があるんですけど、DとかCのところもいろいろあると思いますので、委員がおっしゃっていたように、全体像といつぐらいのスケジュールで、幾らぐらいかけられて、今回はクラウドファンディングで1,000万円超えではあるけれども、どれぐらいの費用をかけて、この危険なDとかCが２年後、３年後に改修できて、安全ですよになるのか、５年、10年かかるのかみたいな、何かそういうものが見えてくると、みんなが安心して応援したり、見守れる形になるんじゃないかなと思うので、こんなに調査委員会があるのに、結局私たちは、ビワコオオナマズ水槽ともう一つのふれあい水槽が直ったら、よしよしではなくて、県民や全国のファンの方を含めて、もうちょっとうまくできたらいいなというふうに思いました。以上です。

○事務局（事業部長）：ありがとうございます。実際、今ご指摘いただいて、あっ、そうだよねって、ストンと私のほうでも納得したところなんですけれども、全体像をみんなで情報共有しながら、みんなで進んでいくというような機運を高めながら進めたいというふうに思います。ありがとうございます。

○委員：外部評価のところで、私は６－２として、「今回の水槽破損事故については、多くの人の知るところであり、クラウドファンディングで呼びかけるのもいいのではと思いました」というふうに書きまして、クラウドファンディングが始まって、明日までですね。これまでインターネットも見せていただいているんですけど、本当に多くの人のコメントも見せていただいて、ほっとしています。一つ、お尋ねしたいことがあります。「よみがえれ！日本の淡水魚」のところ、あれもこれからクラウドファンディングを一部とか利用されて、アクリル箇所を直されるとかいうことになっているんでしょうか。

○事務局（事業部長）：はい。ネクストゴールのほうでご提示させていただいたと思うんですけれども、希少種のところのアクリル水槽のところも交換するという方向で計画予定しております。

○会長：ありがとうございます。まだまだご意見等あろうかと思いますが、時間も来ておりますので、このあたりにしたいと思います。

なお、この水槽破損とその後の対応ということについては、事業目標６に関わって、事業評価の対象になってきますので、また夏の外部評価に向けて、皆さんも継続的に見守っていただければと思います。

４　その他

○会長：それでは、次第の議題の４、最後のところのその他として、これまでの議題以外に、博物館に対するご質問、ご意見等ございましたら、手短にお願いいたします。

○委員：お尋ねしたいことがございます。

能登半島の大震災で、恐らく水族館とか資料館があったのではないかなと認識しているんですけれども、東日本大震災のときに、各博物館が協力し合って修復作業をされたとか、そういうこともちょっと記憶にあるんですけれども、まだ１か月しかたたない状況ですが、能登半島の水族館、博物館とかの状況はどういうふうになっているんでしょうか。少し外れたところかもしれないですけれども、すごく気になっているところです。

○館長：当館は水族展示がありますので、日本動物園水族館協会にも入っておりまして、そこでの情報なんですけども、能登半島の真ん中辺りの東側に島がありますけど、その島に「のとじま水族館」というのがありまして、そこが大変なことになっているということで、ジンベエザメも被害に遭いましたし、そのほかの生き物の飼育もできないということで、日本中の水族館がそれを分担して引き受けて、飼育するということになっておりまして、近畿の水族館も受け入れております。当館は淡水で、「のとじま水族館」は海水ですので、ちょっと（生き物を）受け入れられませんけれども、近畿の多くの水族館で協力しております。

○委員：ありがとうございます。

○会長：ありがとうございます。まだまだご意見等あろうかと思いますが、時間も来ておりますので、本日の会議は以上で終了いたします。長時間にわたり、貴重なご意見をありがとうございました。事務局にお返しいたします。

５　閉　会

○司会（杲副館長）：ありがとうございます。

村上会長並びに委員の皆様方におかれましては、長時間にわたり熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。

本日いただきましたご意見、ご提案等は、出席している我々のみならず、館内職員で共有しまして、改善に向けて検討しまして、今後の博物館運営に生かしてまいりたいと考えております。

今日の議事録につきましては、大体３週間程度をめどに、委員の皆様にご確認いただきたいと考えております。大変ご多用のところと存じますが、よろしくお願いいたします。ここで、館長の高橋からご報告等がございますので、よろしくお願いいたします。

○館長：私から皆様にご報告したいことがございます。

私は、準備室６年、博物館ができてから28年、そのうち館長として５年、琵琶湖博物館で34年働いてまいりましたけれども、本年３月をもちまして任期満了ということで、博物館を退職いたします。実は退職は、60歳の定年のときに１度やりまして、２度目の退職ということになります。

皆様方にはご多忙の中、大変なご苦労をおかけしながら、琵琶湖博物館の運営に真摯に、私たちと共に考えていただいておりますことを心より感謝いたします。

私は３月で卒業となりますけれども、皆様方には引き続き博物館の理念の実現に向けて前進できるように、ご助言のほどをお願いしたいというふうに思っているところでございます。

本日は、私の最後の博物館協議会ということになりますので、退職いたしますことのご報告を皆様にいたしますとともに、甚だ簡単ではありますが、これまでのお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。また、併せて今後ともよろしくお願い申し上げます。（拍手）

○司会（杲副館長）：それでは、これをもちまして、滋賀県立琵琶湖博物館協議会令和５年度第２回会議を閉会させていただきます。